

医療的ケア児

交流の場
心弾む

十勝管内の医療的ケア児を支援する「いえるーろじか」(松山なつむ代表)が5日、帯広市内の南町コミセンで医療的ケア児とその家族を対象にしたイベント「五感D e運動会!」を開催した。孤立しがちな医療的ケア児と家族が、支援者や他の家族らとの触れ合いを楽しんだ。

支援団体「いえるーろ」運動会



最後に「心が動いたて賞」をもらい、うれしそうなお表情を見せる参加者

「家族支える存在知って」

松山さんは訪問看護ステーションかしの森(帯広)の統括所長として、医療的ケア児やその家族と向き合う中で、「一人で抱え込まないでほしい」との思いを強くした。2017年に医療・福祉関係者らで同団体「当事者家族らがつながりをつくるきつかけ」として、普段は体を動かす機会が少ないうちの医療的ケア児が主役となれる運動会を3年前にスタートした。松山さんは「当事者家族に、支援やお手伝いが周りにいることを伝える場になりたい」と下痢を話す。

孤
の
と
な
り
に

医療的ケア児 たん吸引や人工呼吸器などの医療行為を日常的に必要とする子ども。付きっきりでケアに当たる家族は外出も難しく、孤立してしまうこともあるとされる。



笑顔で運動会を終えた参加者

場を盛り上げた。参加者は様を使って音を出しながら行う応援合戦や、風を感じながら走るレース、手触りを頼りに箱の中身を当てるゲームなどを親子で楽しんだ。子どもたちは興味を持ったように目を開いたり、笑顔を見せることも。時には嫌がるような様子も見せ、それを見守る家族や参加者からは笑顔が絶えなかった。

佐口賢人さん(33)、さおりさん(32)夫婦は脊髄性筋萎縮症の長男(男一ちゃん)と参加。さおりさんは「他の家族と交流できたことが何より良かった。息子にとっても友達との関わりは初めての経験で刺激をもらえたと思う」と話した。

この日は、重症児ケアイサや表情で感情表現が難しい子どもたちから、五感を刺激するゲームで喜ぶ児童を待ち受ける様子も目撃された。運動会は家族対抗戦で、得点の基準は子ども准教授が理事を務める「ちの心が動いたら」。言葉くたいKIP」が行い、会

十勝の「宇宙」知って

藤丸7階
10月15日 展示やトークショー

十勝の宇宙産業について、I S T が手掛ける人工衛星

紹介する「I」から宇宙フェス 搭載用ロケット「ZERO」乙が10月15日、帯広市内(セロ)の8分の1スケールのくまざわ書店で開かれ

宇宙産業について学ぶ。参加した子どもたちはクイズや抽選で「宇宙食ハンバーガー」やHOPPOグッズなどを当てる。

同日午後2時から、横山さんのサイン会が藤丸6階のくまざわ書店で開かれ